

# 三条西家旧蔵『延喜式』卷第五十・雜式

吉岡眞之

New Materials: The Sanjonishi Edition of *Engishiki*, Volume Fifty, "Assorted Procedures"

はじめに

本巻の概要

① 書誌

② 内容の特徴

影印・翻刻

〔論文要旨〕

三条西家旧蔵『延喜式』は巻第五十雜式のみを伝えるに過ぎないが、鎌倉時代の写本と見られ、九条家本『延喜式』（東京国立博物館所蔵）・金剛寺本『延喜式』（天野山金剛寺所蔵）などとともに『延喜式』の重要な古写本の一つである。第二次世界大戦後の混乱期に三条西家がこれを手放し、以後、古書肆を経由して個人の所蔵となっていたが、二〇〇一年度に国に移管され、国立歴史民俗博物館が保管することとなった。本巻には流布本に見えない条文や文言・分注が含まれていることで夙に著名であり、皇典講究所・全国神職会編『校訂延喜式』（一九三二年刊）、新訂増補国史大系『延喜式』（一九三七年刊）でも対校本としてすでに利用されている。ただし、ながらく個人の所蔵であったため、その全容は必ずしも学界に周知されているとはいえない状況にあり、したがって究明すべき課題が残されている。このような状況に鑑み、本稿では全文の影印を提示するとともに翻刻を行い、あわせて書誌的情報を示し、内容お

よび写本の様態に関する二、三の研究課題について指摘する。